

知っておこう!

健康診断の

監修:石川 隆氏
丸の内クリニック 院長



第17回

ウン?・ホント! 子宮がん検診

会社員の健(タケシ)さんの妻、康子(ヤスコ)さんは子宮がん検診の検査項目が不安なようです。夫婦の会話から、今回は子宮がん検診について考えていきましょう。

1 子宮がん検診は「子宮頸部細胞診」だけで安心できる?

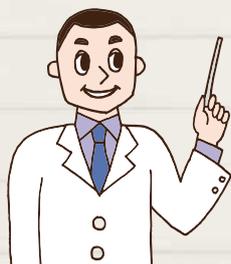
子宮がん検診の項目が“子宮頸部細胞診”^{けいぶ}ってなっているけど、それだけで大丈夫かしら?自己負担で他の検査も受けることができるみたいだけど



ヤスコ
康子さん
主婦(35歳)

タケシ
健さん
会社員(40歳)

“子宮頸部細胞診”は子宮頸がんの早期発見に有効らしいよ。子宮頸がんは特に若い人に多いそうだから、まずはそれを受ければ良いんじゃないかなあ



子宮頸がん検診は、科学的な方法により、がん検診として効果があると評価されており、検診の実施による死亡率の減少が明らかになっています。20歳以上の女性では、2年に1回、細胞診による子宮頸がん検診の受診が推奨されています。しかし日本

人女性の子宮頸がんの検診受診率は25%前後で、欧米諸国の70~80%と比べ極めて低い状態が続いています。

地方自治体などで実施されている「子宮がん検診」は、一般的に「子宮頸部細胞診」による子宮頸がん検診です。子宮がんは、子宮頸がん^{けいがん}と子宮体がん^{たいがん}に大別され、子宮頸がんは子宮の入り口にあたる子宮の頸部や頸管上皮から発生するがんです。

子宮体がんは子宮内膜がんともよばれ、胎児を育てる子宮体部の内側にある子宮内膜から発生するものです(図1参照)。

子宮頸がんは、外子宮口の付近から発生することが多いため、検診では子宮頸部を綿棒やブラシのような器具でこすって細胞を採取し、顕微鏡で正常な細胞かどうかを確認します。

子宮頸がんは、「異形成」^{いけいせい}という前がん状態を経てがん化することが知られていますので、無症状のときから婦人科の診察や集団検診などで早期発見できます。年齢別にみた子宮頸がんの罹患率は、20歳代後半から40歳前後までが高く、それ以降横ばいになります(図2)。

子宮頸がんの発生には、その多くにヒトパピローマウイルス(HPV:Human Papillomavirus)の感染が関連しています。HPVは、性交渉で感染するウイルスで、子宮頸がんの患者さんの90%以上から検出されます。HPV感染そのものはまれではなく、感染しても多くの場合、症状が出ないうちにHPVが排除されると考えられています。しかし排除されず感染が続くと、一部に子宮頸がんの前がん病変や子宮頸がんが発生すると考えられています。

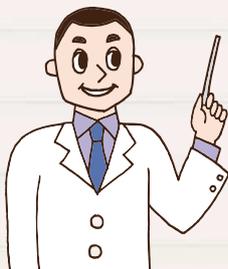
2

「経膈超音波検査」でどのような病気がみつかるとの？

子宮体部がんや早期発見が難しい
卵巣がんなどがわかる“経膈超音波
検査”という検査があるそうよ



超音波で子宮頸部や体部、
卵巣の状態などを映し出す
検査だね。奥のほうの腫瘍
も発見できる有効な検査
だと聞くよ



子宮がん検診には「内診」とい
う婦人科医の診察が含まれて
いる場合と含まれていない場合
があります。一般に人間ドックの婦
人科検診では含まれていますが、
地方自治体などの検診では子宮
頸部細胞診のみで内診が含まれ

ていない場合があります。「内診」とは婦人科医が膈から
指をさし入れ、もう一方の手で腹部を触って子宮や卵巣
の状態を調べる検査です。大きな腫瘍や子宮筋腫、卵巣腫
瘍は診断できますが、小さな腫瘍などは判断ができない
ことがあります。

人間ドックでオプションとなっている検査として「経膈
超音波検査」があります。これは細長い超音波検査の器具
(プローブ)を膈内に挿入して内側から超音波をあて、
子宮や卵巣などの異常がないか観察するものです。

子宮頸部は子宮の入り口なのでコルポスコープなど
で観察できますが、子宮体部や卵巣の状態は「内診」
だけでは診断が困難な場合があります。この点「経膈
超音波検査」は子宮体部の異常(がんや肉腫だけでなく
子宮筋腫など良性疾患も)や、卵巣の異常(卵巣腫
瘍や卵巣嚢腫など)も画像としてとらえることができ
ます。婦人科の内診で異常がない場合でも、経膈超
音波検査で異常が見つかることがしばしばあります。

子宮体部がんも卵巣がんも40歳代から50歳代に
かけて頻度の高いがんですので、40歳以上では、婦
人科の内診、子宮頸部細胞診を基本とし、オプション
として経膈超音波検査の選択が考えられます。

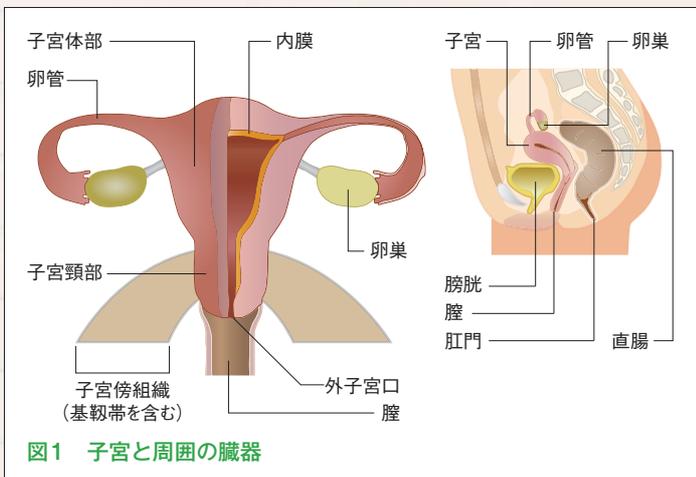


図1 子宮と周囲の臓器

文献1)より

参考文献: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報サービス
1) http://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/index.html
2) http://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/uterine_cancer.html

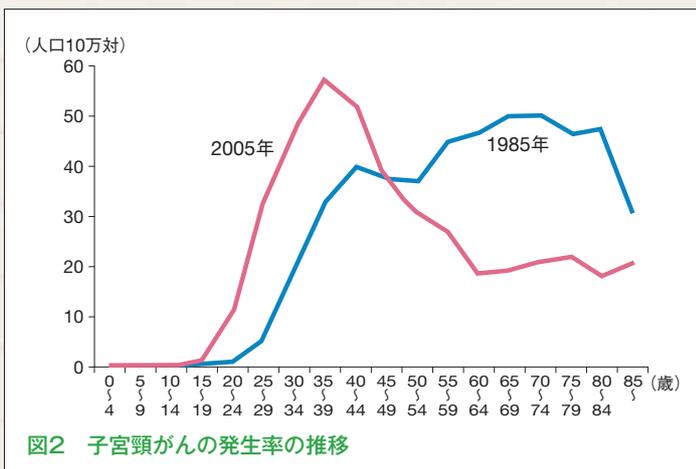


図2 子宮頸がんの発生率の推移

文献2)より

Mini Column

子宮がんの疫学

子宮がんにかかる人は、全体として年間約2万人で、このうち子宮頸がんが約9,800人、子宮体がんが約10,800人、どの部位か情報がない子宮がんが約900人となっています(地域がん登録全国推計値2008年)。また、子宮がんで亡くなる方は、全体として年間約6,100人、このうち子宮頸がんが約2,700人、子宮体がんが約2,000人、どの部位か情報がない子宮がんが約1,300人となっています(人口動態統計2011年)。